

カーネーションのひきつり症対策

県農業試験場園芸支場花き花木部(現、農研センター農産園芸研究所花き部)

研究のねらい

ひきつり症の発生要因について検討し、対策技術を確立するとともに、ひきつり症発生の少ない優良系統の選抜を行う。

研究の成果

「ひきつり症」の著しかった系統(不良系統)と「ひきつり症」の見られない系統(良系統)を用いて調査した。

1. 「ひきつり」の発生は良系統では全く認められず、不良系統で多発するため遺伝的要因が大きく、「ひきつり」のない系統の選抜が必要である。
2. 「ひきつり」は、温度較差(高温 低温)が発生を助長するため秋～冬期の設定温度を10～12とし、温度較差を小さく管理することが大切である。
3. 良系統であっても、茎頂培養を行ったところ11%の割合で「ひきつり症」の出現が認められたことから、茎頂培養に供する母株と原々種の品種検定で「ひきつり」の発生していない株を選抜することが大切で、このことにより「ひきつり」株は淘汰できると考えられる。
4. 昭和57～62年まで「ひきつり症」のない優良系統を選抜し、原々種として県下の育苗組合に配布した。

図1 ひきつり症の防止対策

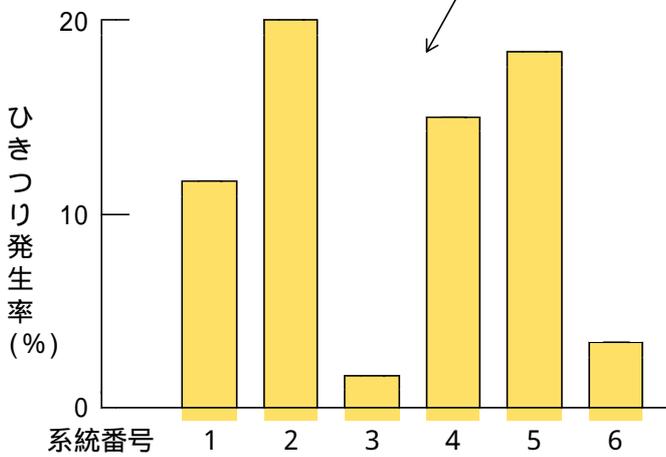
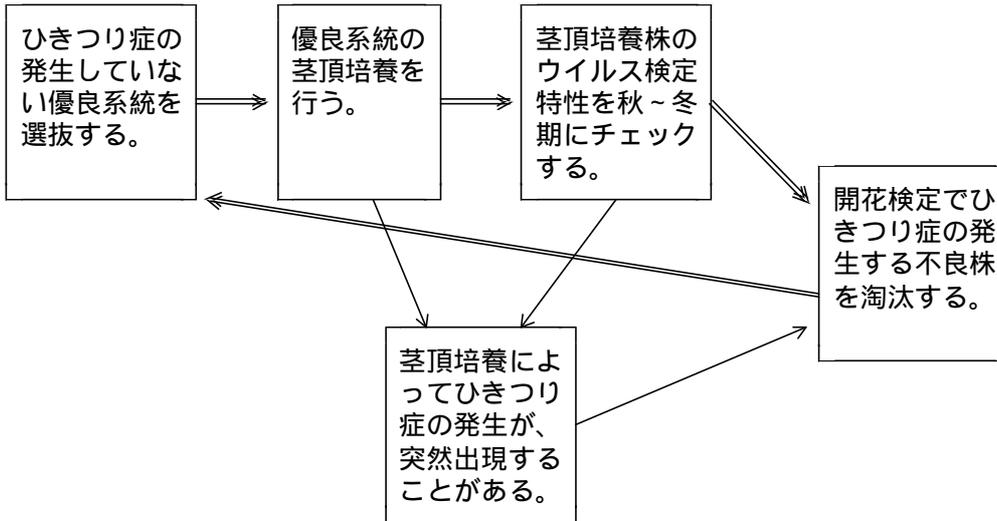


図2 茎頂培養によるひきつり症発生の割合



写真 ひきつり症